

各関係機関の長  
各病害虫防除員 殿

宮崎県病害虫防除・肥料検査センター所長

平成27年度病害虫発生予察注意報第4号について

平成27年度病害虫発生予察注意報第4号を発表したので送付します。

## 平成27年度病害虫発生予察注意報第4号

平成27年12月1日  
宮 崎 県

病害虫名 ハダニ類

作物名 いちご

1 発生地域 県下全域

2 発生時期 収穫期

3 発生量 多

### 4 注意報の根拠

1) 11月中旬におけるハダニ類の巡回調査の結果は、次の通りであった。

発生面積率：92.3%（前年61.6%、平年45.8%） 平年より多

寄生株率：27.7%（前年20.8%、平年12.5%） 平年より多

葉当たり虫数：4.6頭（前年5.7頭、平年2.1頭） 平年よりやや多

同時期で見ると、発生面積率は過去10年で1番目に、寄生株率および葉当たり虫数は2番目に高くなっている（図1～4）。

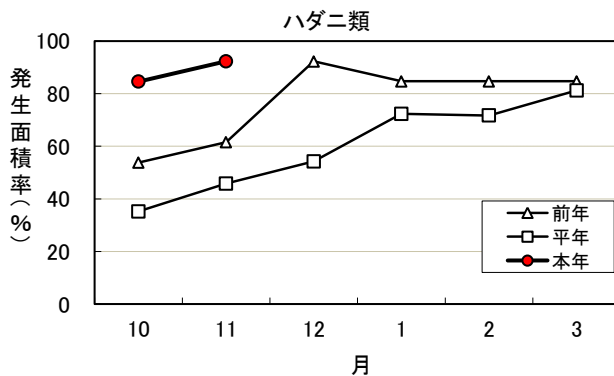


図1 発生面積率の推移

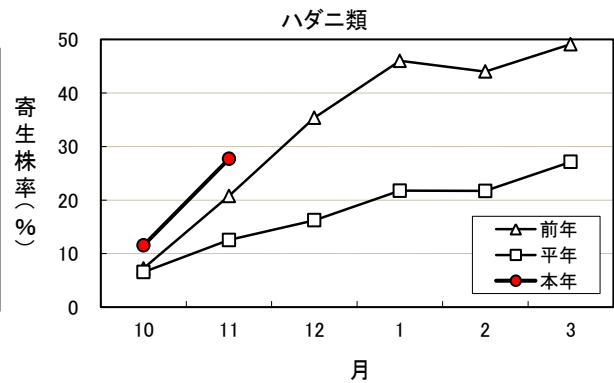


図2 寄生株率の推移

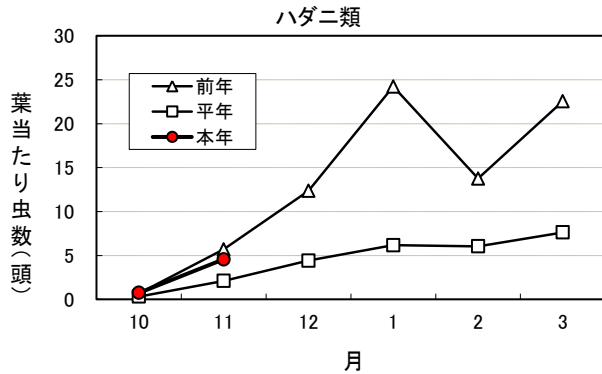


図3 葉当たり虫数の推移

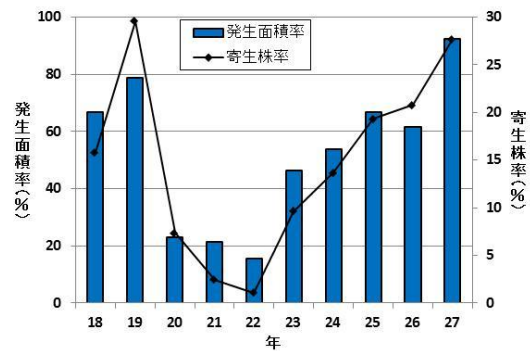


図4 過去10年における発生推移

注) いずれの年も調査期間は11月中旬

## 5 防除上の注意

- 1) 発生初期はスポット的に寄生しているので、収穫や摘葉などの作業時に注意深く発生の有無を観察し、発生を見つけた場合は、見失わないようにマークし必ず散布する。発生場所の周囲は葉裏の発生状況を確認するなどして、漏れがないように防除を行う。
- 2) 急激に個体数が増加するため、初発生を認めたら直ちに防除を行い、5～7日間隔で連続して防除する。
- 3) ハダニ類の卵や虫体は糸で覆われ、散布薬液がはじかれるため、展着剤もしくは粘着性の高い気門封鎖型薬剤を活用する。
- 4) 下葉の裏に多く寄生しているので、不要な下葉を除去した後、薬剤が葉裏まで十分にかかるように丁寧に散布する。除去した茎葉はできるだけすみやかにほ場外へ持ち出し、ほ場内への分散防止に努める。持ち出した茎葉は、ほ場近くに放置せず適切に処分する。
- 5) 有効な薬剤に対する抵抗性の発現を回避する観点から同一系統薬剤の連用は避け、異なる系統の薬剤のローテーション散布に努める。
- 6) 主要な防除薬剤に対する感受性が低下した個体群が確認されていることから、抵抗性発現の可能性が低い気門封鎖型薬剤の使用、天敵の活用を図る。
- 7) 農薬の選定に当たっては、天敵およびミツバチへの影響について十分に注意する。

## 6 その他

- 1) 農薬散布にあたっては、ラベル表示の確認を十分に行い、農薬使用基準を遵守し、危害防止に努めましょう。
- 2) その他詳細については、西臼杵支庁・各農林振興局（農業改良普及センター）、総合農業試験場生物環境部、病害虫防除・肥料検査センター等関係機関に照会してください。

### 《連絡先》

宮崎県総合農業試験場病害虫防除・肥料検査課

(病害虫防除・肥料検査センター) 久野

TEL : 0985-73-6670 FAX : 0985-73-2127

E-mail : byogaichu-hiryo@pref.miyazaki.lg.jp